



ひとりごと提案

奥の細道を東日本の 定番巡礼コースに



Presented by tamasikomeru(from wonderfuntime)

www.wonderfuntime.jp

1)前提

西日本には

四国八十八か所巡りがあります

東日本にも同じような聖地を時間をかけて足を運ぶ
巡礼コースがあっても良いのではないのでしょうか

そこで提案します

目 標

奥の細道を東日本の 定番巡礼コースに

育てる

目 的

東北地方、北陸地方へ訪れる人が増えて
賑わい創出、地方にお金が落ちる施策とする
日本の誇る芸術 俳句に親しむ機会をつくる

2) 奥の細道の価値

奥の細道が東日本の巡礼コースとして
ふさわしいかを考えてみます

和歌というと和の歌、つまり日本の歌と
いいかえることができるかもしれません。
松尾芭蕉は連歌の発句を切り出して
17音の俳諧を確立させました。
わずか17音で無限の世界を表現できる
至高の芸術と言えます。

小説や詩、民話などは世界各国に同様の
ものがありますが、俳句は文学としても
日本固有の物。

その創始である松尾芭蕉、
その最高傑作である奥の細道、
その旅の舞台はそれ自体が聖地と言っても
過言ではありません。

また、奥の細道の旅は実は旅のコースと
しても見どころたくさん！
魅力的な旅です。
次は奥の細道が持っている旅の魅力に
迫ってみます。

3) 奥の細道、旅の魅力

奥の細道には芭蕉の名句だけでなく
たくさんの魅力が詰まっています。

- 1) 旅の名所がたくさん登場します
日光、松島、象潟、山寺、永平寺・・・
- 2) サイドストーリーのように出てくる物語
が旅を彩ります
 - ・九尾の尾を持つ狐「玉藻の前」
 - ・安達ヶ原の鬼女
 - ・源義経や奥州藤原氏
 - ・紅花の豪商、鈴木清風・・・
- 3) 当時の旅の難所に思いを馳せる
ことができます
 - ・なたぎり峠、親不知子不知・・・
- 4) 自然の素晴らしさやパワースポットを
体感できます
 - ・最上川の川下り、出羽三山登山・・・

もちろん上記の奥の細道の旅にまつわるもの以外にも、
おいしい現地のグルメや歴史など盛りだくさん！
(わっぱ飯、冷やしラーメン、山菜そば、ずんだ餅、
板蕎麦、などなど枚挙にいとまがないグルメの嵐！)

奥の細道にはちょっと有利な点も・・・次ページへ

4) 奥の細道、有利な点って何？

日本の人口が一番集まっているのはもちろん関東です。仮に四国八十八か所を巡ろうと思うとまず四国までいかないといけません。しかし奥の細道は出発点が東京の千住、気軽に参加しやすい場所です。その東京では20年以上前から夏にポケモンスタンプラリーが開催されていました。当時の参加者たちが大人になってからまわる新たなスタンプラリーとして奥の細道を提供してはどうでしょうか。もしかしたら受け入れやすい下地があると考えられるかもしれません。参加しやすく、更に潜在的参加者が眠っている地の利があるのです。

出発点の東京、そして次に通過するのが埼玉県の草加、春日部と旅の序盤に人口の多い都市が続きます。参加対象が多だけでなく、観光予算も比較的によく算出しやすいといえるかもしれません。東北の各県だけではなく、この関東エリアを巡礼コースとして巻き込むことで、より大きな仕掛けを組むことができるのではないかと考えられます。

次に、現状の問題点について考えてみます。

5) 巡礼コース化の問題点って？

奥の細道の足跡を訪ねる旅をしていて感じる問題点は一貫性です。

奥の細道の旅、その道筋には多くの句碑や銅像や記念館、資料館があります。

また名所を案内する看板や地図、観光案内などがあります。

しかし、各県や市町村ごとに取り組みされていて統一感がありません。

(観光案内も市町村や県単位で作られています)

その町の資産ではなく、東日本の資産と捉えて取り組むべきだと思います。

あってしかるべきもの

- 1) 全コース統一の地図や看板
- 2) コースすべてを踏破した時に達成感を感じることができるような仕掛け
(コースの中でもとくに神社などでは奥の細道用の御朱印帳なども別に用意する)
- 3) 出発時にもっていく必須アイテム
(四国八十八か所の杖のような)
- 4) 一目見てわかる参加コスチュームかテーマカラー
- 5) 統一のロゴやキャラクター
- 6) 実際に参加中の人のSNSなど

6) 問題点を越えるために

前ページの問題点は県や市町村を横断的に企画を組まないといけないということです。

NPOなど非営利組織が中心となり、学びの場、学術性、旅の魅力を背景としたイベントを企画することが重要かなと思います。

NPOの名前も

「奥の細道 日本最大スタンプラリー化計画」

のようなわかりやすい名前にして

ホームページを立ち上げ、

何を目的に何をするNPOなのかを明確に

宣言し、必要な資金は時には

クラウドファンディングで集めて展開して

いくことが必要といえます。

そして中庸な立場の人が中心となりながら、

各都道府県やJR、旅行代理店なども

巻き込んでいくことも大切です。

7) 日本最大スタンプラリー化計画とは？

計画の詳細を想定してみます

- 1) 3月20日に奥の細道の出発イベントを大々的に開催、旅程上の名物料理や魅力を発信、チラシとスタンプラリーの台紙を配布※達成特典明記
- 2) タレント志望の方が実際に旅をしてSNSとNPOホームページで告知
※決まり文句やポーズ、サウンドロゴ、テーマカラーを企画、一目でわかるアイキャッチを用意
定番の何か(これ大事)を企画
- 3) 旅のガイドブック出版
- 4) 旅程上の各都県の地方局(TV・ラジオなど)や番組、俳句雑誌やタウン誌、各地の芭蕉記念館にプレスリリース
- 5) 外国語版を用意(俳句に興味のある外国の方を起用しての旅実施)
- 6) ゆるキャラが各都県のイベントへ参加
- 7) スマホでスタンプを集めることができるアプリを開発。
※イベント性も企画
- 8) 各地の看板を整備(共通デザイン)
- 9) 小学校教育の場への浸透
- 10) ウォーキング&サイクルロード整備
※統一カラー(奥の細道カラー)

8) 締め

俳句は日本の誇る芸術です。
わずか17音の中の無限の世界。

芭蕉は尊敬する西行法師の500回忌に
合わせて奥の細道の旅に出かけました。
その旅先では西行の足跡も訪ねています。

西行や芭蕉が好んだのは華美なもの
を排除し、とてもシンプルな生活。
まるで人生そのものが「わび」「さび」を
体現しているかのよう。
極限まで無駄を省いた17音の俳句も
同様に、茶道や華道などにも通じるように
感じます。
空白を生かして表現する書や絵にも。

日本の誇る芸術がより身近に感じられ
その素晴らしさをより多くの方が
体験できるようになりますように。
そして東北や北陸の地が盛り上がる
施策になることを想い。

ひとりごと提案とさせていただきます。